

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

# 生涯の闘いに捧げた労働者・農民

## 追悼 日本原 鷺田正平氏の死を悼む

自衛隊基地の返還を求めて永年の闘いを続けている日本原闘争の偉大な指導者、戦前・戦中・戦後にわたる日本労働運動・社会変革運動の不屈の闘士にして指導者である鷺田正平氏は、春以来の病氣療養中のところ、去る八月三十一日逝去されました。高年齢をおして、日本原はもちろん、三里塚をはじめとする全国の住民闘争、勤労千葉支援に心血をそそぎ、生命の火のもえつきる日まで闘い続けられた氏の姿を想うかべ、深い悲しみと心からの敬意をこめて、追悼するものです。

鷺田正平氏は、一八九九年（明32）岡山県・日本原に生まれ、小学校卒業後、12才で単身大阪に出て店員、工員等を経験ののち、一九二二年に大阪市電に就職、翌年には市電労働組合の結成に参加しました。時代は第一次世界大戦後の世界的な労働運動・革命運動の本格的な高揚と共に日本帝国主義の本格的な朝鮮・中国侵略が行われていく時代であり、鷺田氏もこの闘いの先頭に立ち、当時よ

り労働争議のあるところ鷺田正平の名ありと言われ、たびたびの官憲の弾圧をうける中、右腕に大ケガをさせられ、「障害」者としての闘いの道をもあわせて行つてこられた。一九三七年、中国侵略・日中戦争と共に弾圧が厳しくなり、労働運動・社会運動の中心人物は次々と職場を追われ、獄につながれ、生命の危険とも闘うようなギリギリの闘いの日々を身をもって氏は体験、たえず不屈の労働者魂をもやして闘い続けられた。一九四五年八月、敗戦と共に再び公然と日本労働運動・農民運動再建の先頭に立ち、日本社会党と日本農民組合の再建を指導し、中央執行委員、更には戦後初の公選に県会議員として立候補、戦後の混乱期より二期八年にわたつて県会に論陣を張り、労働者・農民の立場から歯を衣させぬ明快な論調と昼夜を分かたぬ行動力はいまだに語り草となっています。

又、一九五三年、日本原演習場が米占領軍から日本に返還される時点

### 農民との共同闘争こそ労働組合の再生の道

（日本原農民） 鷺田正平



ご承知のように、明治憲法復元決議を行なったのが、わが日本原の奈義町であります。その奈義町においてわずか七十人ですが私たちは、国を相手どつて、違憲の訴訟をしています。訴訟以来約四年かかって、国は「高度の行政行為によつて行うのであるから、裁判所には裁判権がない、裁判長は訴訟を却下せよ」との主張をいたしました。政府は、日本の裁判所を裁判権のない裁判所にしてしまいました。三里塚空港の場合にも、閣議決定緊急施行の名において、農民の知らんまに農地をとり上げる策動を行いました。私たちは国の無謀を黙視することはできません。

私たち日本原は七十年の歴史をもつておりますが、わが日本原においても法律はございません。町会議員全員は自衛隊の小使いでございます。国は町予算の約三〇%を町に交付しております。基地周辺整備費が約一七〇億円ほどで、地元を懐柔してまいります。金力と権力とに対して、私は立ちあがって闘わざるをえません。先般、勤労の会議が、わが津山市において行われま

した。最近の労働組合のなかで、初めて勤労が労働組合らしくなったと喜んだのは、三里塚の同志諸君とともに闘ったからであります。私も往年、官業労働組合の中央委員のころ昭和十二年に私たちは投獄され、日本の労働組合全部が解散を命じられたことがあります。そして私が出獄したときには、日本に労働組合もリーダーもありませんでした。戦後の労働組合は、私にいわせれば、「マッカーサー労働組合」といふべきものです。雨後の竹の子のようにできました労働組合は、多くが御用組合として成長しました。今回の勤労中央の態度は御用組合に他ならない。真に労働運動の精神をもって、千葉の労働組合の人たちが立ちあがって農民と共同闘争をすることが、違反であるがごとく、組合内部においてこれを糾弾することが、もつてのほかでございます。勤労千葉の人たちが、初めて真の労働組合として立ちあがったことを支援し一致協力せずして、日本の労働運動がありますか。（勤労本部による勤労千葉への統制処分を弾劾して申された、二七、二八、二九日集會より）

### 全国の闘う仲間に見送られて

葬儀は、九月一日、十一時三十分から鷺田家と日本社会党の合同葬として神道に基づき盛大に催されました。

八十四年の生涯を人民闘争に献げ、その先頭で闘いぬいた鷺田氏の葬儀にふさわしく、二〇〇名をこえる各界各層の闘う代表が参加し、勤労千葉からも水野副委員長が参列しました。弔辞は、参議院議員・社会党県本部委員長、友人代表、「障害」者代表、三里塚芝山連合空港反対同盟・鈴木幸司氏が行いました。その他、社会党飛鳥田一雄氏など社会党関係者、三里塚芝山連合空港反対同盟、勤労千葉、東京実行委員会・浅田光輝氏、関西新空港反対期成同盟、北富士など、時間内に紹介しきれない程多数の弔電が寄せられました。主催者を代表して次男正志氏の会葬御礼のこゝとば、社会党県本部・田中書記長の「鷺田氏の教えと意志をうけ継ぎ闘いぬく」決意表明とあいさつのあと全員でしめやかに霊柩車まで見送りました。